

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

1Fユニット

事業者名	グループホーム福寿草	評価実施年月日	平成19年8月1日
評価実施構成員氏名	杉本龍治 島田千春 沓澤美雪 山下てるみ 二瓶マミ 村谷守 甲斐美恵子 長谷川恵美子		
記録者氏名	杉本龍治	記録年月日	平成19年8月17日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課 (平成19年4月版)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>福寿草の最高モットーを理念とし、職員一人ひとりが内容を理解し、日常の業務に反映できるよう心がけている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>事業所の基本理念に基づき、入居者の皆様が安全で安心した生活が送られるよう職員が取り組んでいる。</p>	○	職員内の共有を強化し、理念の浸透を徹底していきたい
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族への文書による周知、運営推進会議での広告等浸透に努めている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>朝のゴミだし等を含め、挨拶は欠かさないように心がけており、近隣の方からも気軽に声をかけていただける。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会にも加入し、地域行事などには進んで参加するよう努めている</p>	○	町内会行事も数多く開催されない為、機会を持つことが難しい。地域への事業内容周知を含め進んで参加していくよう努めている
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>事業母体の診療所、関連法人のケアハウス等を含め、入居希望その他在宅での介護サービス利用の希望の際には各事業所連携をとり迅速な対応を心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価については事業所職員間で検討し、今後の業務に活かせるよう努めている。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的開催しており、会議内での検討内容については各職員に伝え、今後のサービスの向上に反映できるよう努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	定期的な入居状況の報告は勿論、サービス提供その他制度等に関する疑問点については市担当者に相談、助言を頂くよう心がけている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	各種研修会、講習等の参加にて学習しているが、現在活用のケースは無い状況である。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	職員会議等でも取り上げ、共通認識を持つよう努めている。また、法人内部研修等でも身体拘束、虐待について取り上げ全職員に行渡るよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、重要事項説明書の交付も行き、費用その他の契約内容について十分な説明を行い理解を得るような配慮を行っている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的に管理者を含め、職員は入居者の意見をくみ上げるよう心がけており、不満、苦情等を職員会議等で取り上げ、運営に反映できるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族面会時の生活状況の報告は勿論、1ヶ月毎に入居状況の手紙を通じて家族への報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見、苦情があった際には職員全体で協議し、迅速な対応を行いその結果を家族に報告するようにし、運営に繁栄できるよう努めている。	○	今年度より開始している運営推進会議も有効に活用して期待と考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議の他にも通常の業務内でも管理者と職員間の意見交換を密に行いサービス内容の向上に反映できるよう努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	緊急的な通院介助、食材の買出しその他外出援助等にも対応できるよう勤務時間の調整、職員確保を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	これまでも数回ユニット間での異動を行い、異動人数は極少数に留め、入居者にも説明を行い、影響が出ないような配慮で行っている。	○	職員異動の期間をもう少し長くして方向で考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内部研修を月1回行っており、積極的な参加を促している	○	外部の研修会、その他の講習等も受講できるよう時間調整をすすめていきたい
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括支援センターを通して他施設との交流会等に参加している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	親睦会を設置し、ユニット間、職員同士の交流を含め、ストレス軽減に向けた取り組みを行っている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	昇給等を含めた賃金形態による評価と、個性の向上が図れる勤務環境の整備を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に利用していたサービス施設、入院施設からの情報はもとより、入居時アセスメントを含め本人の状態その他のニーズの把握に努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前より面会の機会を多くとり、これまでの生活の中での家族の思いや不安な点をよく聴き入れる様務めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容により、施設入所、その他の福祉サービスを見極め、居宅事業所、地域包括支援センター等と連携をとりながら本人にとって適切なサービスに繋がる対応に努めている		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の事前見学や、食事やおやつと一緒に摂って頂く短時間の体験利用等を勧め、抵抗無くサービス利用に繋がるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者本位の生活を基本とし、本人の持つ知識や能力を生活の中で発揮できる環境づくりに取り組んでいる。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時には日々の経過の報告をし、その中から要望を聴き介護計画や日々の生活の中に取り入れ、その変化についても適宜報告するよう心がけている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時に入居者と家族が少しでも落ち着いた時間を過ごされるよう配慮し、年間行事の夏祭り等で家族参加を呼びかけるなどの取り組みを行っている。	○	家族参加の行事をもう少し組み入れていきたい
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅への外出・外泊の他にも、旧友等馴染みの方の面会も可能な限り行っていただけよう支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の人間関係を把握し、穏やかな生活が送られるよう配慮している。必要に応じて職員が中に入る等、関係調整に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後には他のサービス利用を含めて随時相談の受け入れ等支援の継続に取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別性を重視し、入居者本人の意思に沿うケアを心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴、既往歴の情報収集、これまで利用していたサービス事業所とも情報共有し、ニーズに沿ったケアが提供できるよう心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の中から本人の個性、暮らし方を見出し、職員間で情報交換するなどにより、現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月行うカンファレンスで職員間の意見交換を行い個別の介護計画の作成に反映できるよう取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリングによる見直し、継続の判断を行い、その期間以外でも身体状況の変化に伴いケースカンファレンスを行い介護計画の見直しに繋がるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	毎月サマリーを記入する事により、1ヵ月毎の生活状況を把握し、職員間で共有することにより、計画作成やケア内容に活かせるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や買物等外出時の送迎援助を行う他に、デイサービスやケアハウス等法人関連事業所と連携し年間行事を行う等の取り組みを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に民生委員の参加していただき、施設の自衛消防訓練において地区の消防署には通報等の協力を得ている。	○	地域の小中学校のボランティア協力を呼びかけていきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	グループホームの利用上他のサービス利用は困難であるが、地域包括支援センターや他事業所との連携を図り、介護保険以外のサービス等の紹介や、事業所間の連携により合同行事の開催に取り組んでいる。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターが定期的開催するケアマネ交流会や研修会への参加し、包括支援センター職員も定期的に訪問して下さり、施設の空床情報の共有もあり、効果的な連携が図れるよう取り組んでいる。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人及び家族の希望を尊重し、これまでの主治医を継続する体制をとっている。その他にも経営母体である診療所とも協力医療機関として契約し日常の健康管理、その他の相談助言等の医療支援を受けられるよう整備している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医と相談し、必要に応じて紹介等受けられるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関と医療連携体制の契約を結び、週1～2回の看護師の訪問を依頼しており、必要に応じて通院治療を受けられるよう体制整備を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、医療機関と情報交換、相談を行い、家族状況報告するなど対応している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人及び家族の主張を尊重し、主治医等医療機関とも情報交換し、身体状況の把握今後の方針等を含め、方針を共有できるよう努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療連携体制の整備に伴い、『重度化した場合における対応に係る指針』を策定し、家族及び近親者の意思の確認を含め、グループホーム、医療機関、家族がチームとして支援に取り組めるよう努めている。		
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	暮らしの継続性が保たれるよう家族とも充分協議を行い、自宅での生活状況を把握し、抵抗無く施設での生活が送られるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	医療機関等と情報共有する際の個人情報の管理から、排泄、入浴等日常生活におけるプライバシーの保護まで徹底して管理できるよう職員間で協議し、取り扱いには充分注意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の思いを聴き入れ、その個人の力量に合わせて自己決定できるよう取り組んでいる。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個人の趣味・嗜好を優先視し、本人の特徴を活かした介護計画による支援を心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の好みや嗜好に合わせた支援を行っている。理美容は訪問美容室が継続的に来て下さる事により、馴染みの関係も築かれ利用者も安心して散髪等利用されている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の健康状態に合わせた調理方法、楽しんで食事ができる盛り付け等工夫し、準備や後片付けについても職員と入居者が一緒にできるよう取り組んでいる。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お茶やコーヒー、おやつについては利用者の希望を聴き入れ提供している。現在喫煙者は無く、アルコールについては、行事開催時にビールを希望される利用者も居るので、対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンの把握に努め、本人希望と定時誘導を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回、定期的に入浴を行っているが、排泄その他の状況によりシャワー一欲を曜日等定めず行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その日の体調により、また寝たい場合は休んで頂いている。日中も、ご自分で休まれない方は、聞いて希望があれば、休息をとって頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者の状態に合わせ、食器洗い、洗濯物たたみ、掃除、野菜作り、花の手入れ等をしてもらっている。四季折々にドライブに出かけたり、散歩したりしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分で金銭管理ができる方は、欲しい物を買ったりされている。また預かっている方でご希望に応じ、ご家族の了承を得て購入し、預かり帳に記入し、領収証を保管している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、周辺散歩したり、ドライブしたりと出かけている。また、体調を見て家庭菜園の手伝い等にも参加して頂いている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたく普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ユニットの外出行事として、花見や白鳥見学等その季節に合ったものが見られるような外出を計画、実行している。どうしても冬季間の外出が困難である。	○	御家族参加をもっと積極的に声掛けをおこない、御家族を巻き込む様取り組んでいきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は本人の希望により掛けたり、また掛かってきたりしてされている。また伝えて欲しいとことがあれば、ご家族に連絡しています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族、友人、親類の方々が見えられ、お茶を出して、ゆっくり過ごしていただいている。又、他の利用者さんも一緒に会話され、気軽に訪問できる環境づくりの整備を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会などであると参加し、学んだことを発表してもらい、拘束・虐待のないケアを実践している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中施錠せず自由に外に出られる状況にしてある。出入りが判るようチャイムが鳴るよう設定している。二階への階段についても施錠しておらずエレベーターも自由に使える。各居室には鍵は設置していない。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、昼夜共に把握し安全確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状態に合わせ、管理できる方は、はさみや裁縫道具など使用してもらっている。また共同で使用している包丁や漂白剤、鍬や鎌などの農機具は目につかないところに置いている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットの記録を残し、それに対して話し合いをして、再度、事故が起きないように、報告し検討し予防している。薬は毎回、個別の薬箱から取り出し1回分ずつ準備し、誤薬のないように服用する時に確認している。		
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対処法についてマニュアルを定め、初期対応時の訓練等についてもまだ定期的ではないが、法人内部研修において講師を呼び法人全体の講習という形で参加している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災の避難訓練は年に2回しており、夜間想定もしている。	○	今後運営推進会議等を通して地域の方の協力やお願いをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時状況から、考えられる一定のリスクは説明、検討する。入居以降の状態が発生するリスクが考えられる場合、都度家族交え協議している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々の体調は毎日のバイタルチェックで確認。定時その他異常時における医療機関への報告、バイタル変化以外でも普段の状況変化その他の異常発生時に対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は薬の内容について把握し、確実に服薬できる様に支援している。服薬内容変更の場合は、特に状態変化に注意し観察している。個人記録には最新の薬情報が綴られており常に確認し共有できる体制をとっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	入居者の身体状況に合わせて、予防として水分摂取、食事内容、運動などにより解消できる方と、それでも便秘になる方は、医療機関と相談して薬を服薬して便秘解消している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアは入居者の状態によって、自力または、一部介助、見守り、声掛け等して、また協力歯科の訪問診療より、義歯調整、義歯の作り直し、虫歯治療等について頂いている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事・水分摂取量をチェックし、一人ひとりに合わせた栄養・水分が摂取出来るよう促している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防マニュアルを作成し、日常生活のうがい、手洗い、消毒等、また必要に応じてマスクの使用、面会者、見学者にも玄関に張り紙をし、協力を促した。介護側も排泄等にプラスチック手袋を使用し、手すり、柵なども拭き消毒をする。インフルエンザに対する予防接種も職員、入居者全員が接種し予防に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は週2回の買出しと、配達により賄っており、冷蔵庫内清掃も買出しにあわせ週2回行っている。まな板、包丁等の調理器具の消毒についても適宜行い、夏場等食中毒の危険性が高まる際には、徹底した衛生管理の下、調理を行うよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前は段差解消等整備され、夜間以外施錠されていない。周囲も自家菜園を造り、清潔で家庭的な落ち着いた雰囲気が保たれるよう努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの椅子位置なども入居者の生活の妨げにならないよう配慮し、入居者が作成したくす玉などを壁に飾り、居心地良い空間作りを工夫している。	○	季節感を持たせた壁飾り等の演出をもう少し取り入れていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った入居者は食堂の席を隣にしたり、TVの好きな方はTVの見えやすい席にしたり、その方の思い思いで過ごせる環境づくりをしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の馴染みの家具等を持ち入れてもらい、御家族の写真を飾るなどその方の希望や好みに合った居心地よく過ごせる環境づくりに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い日や毎朝の掃除の時に換気をし、室温計等を目安に調節し、常に入居者に確認しながら空調の調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者の状態に合わせて住居環境が適しているか話し合い、安全で自立した生活が送れるよう日々検討している。必要に応じて居室内の様様替え等を家族と協議して行っている。</p>		
<p>86 ○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>その人らしい生活の為に、本人の発言や行動を認識し、混乱や失敗につながらないよう見守りや確認をしながら自立して暮らせるよう工夫している。個々の状態についてはカンファレンスにおいて検討し、ケアに反映できるよう協議している。</p>		
<p>87 ○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭を利用し洗濯物を干したり、夏場は玄関先に休憩用のベンチを設置し畑を眺められるようにしたり、入居者と共に活動できるよう活かしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ・経営母体が医療機関ということもあり、緊急時の対応を比較的迅速に行える。
- ・関連法人による他の介護保険サービスも充実しており、退居後、または親戚・知人の介護に関わる相談にも対応が可能。
- ・入居料金を低価格に設定し、ご家族の費用面での負担軽減を図っている。
- ・安心と安全を基本とし、その人らしい生活が無理なく送られるよう援助を行っている。